

農作物病害虫発生現況情報（6月） 水稻編

1 ばか苗病

(1) 6月中旬（6/11～21）の巡回調査（県内148圃場）では、発生は確認されなかった（表1）。

表1 本田におけるばか苗病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	(参考)	
			H29発生圃場数	H28発生圃場数
県中	56	0	0	0
県北	26	0	0	0
県南	54	0	2	5
遠野	12	0	0	0
全県	148	0	2	5

2 いもち病

(1) 6月上旬の調査では、県南部の複数地域において、取置苗に発生が確認された（平成30年6月11日発表病害虫防除速報No. 5を参照）。

(2) 6月中旬の巡回調査では発生は確認されなかった。

(3) 6月25日現在、基準圃場（北上市成田、無防除）では発生は確認されていない。

3 イネミズゾウムシ

(1) 6月中旬の巡回調査（県内148地点）では、全県の発生圃場率は平年よりやや低かったが、岩手、東磐井地域では、食害程度が高かった（図1、2）。

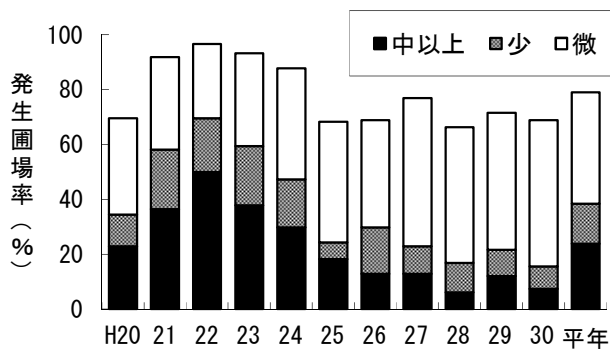


図1 イネミズゾウムシ発生圃場率の年次推移 (6月中旬、食害度)

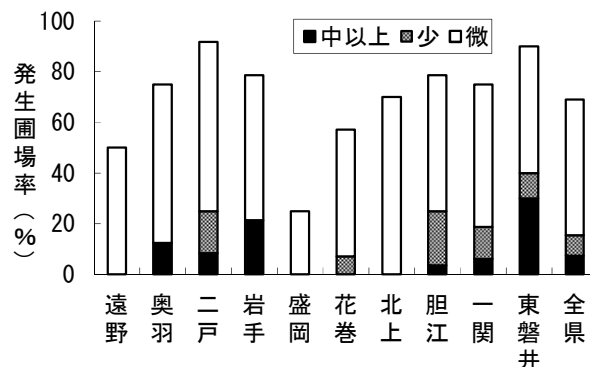


図2 イネミズゾウムシ地域別発生圃場率の比較 (6月中旬、食害度)

4 イネドロオイムシ

(1) 6月中旬の巡回調査では、卵塊は確認されなかった（図3）。

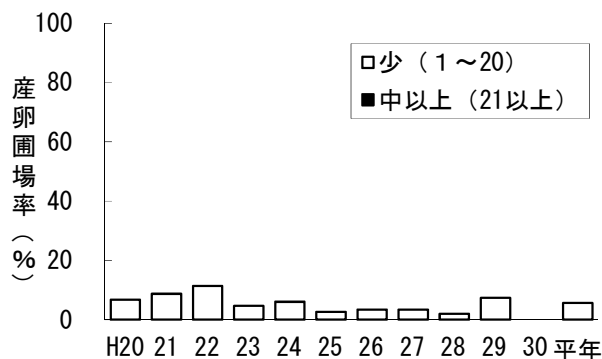


図3 イネドロオイムシ産卵圃場率の年次推移 (6月中旬、程度は25株当たり卵塊数)

5 斑点米カメムシ類

(1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、アカスジカスミカメの成虫が前年（6月第5半旬）より早い6月第2半旬からすくい取られた（図4）。

(2) 6月中旬の巡回調査における水田畦畔すくい取り調査（県内39地点）では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は平年より低かった（図5）。

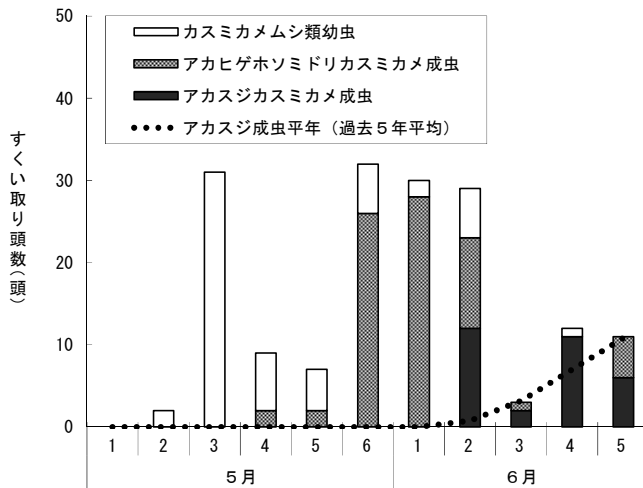


図4 農研センター内草地（北上市成田、イタリアンライグラス）における斑点米カメムシ類すくい取り頭数（往復20回振）

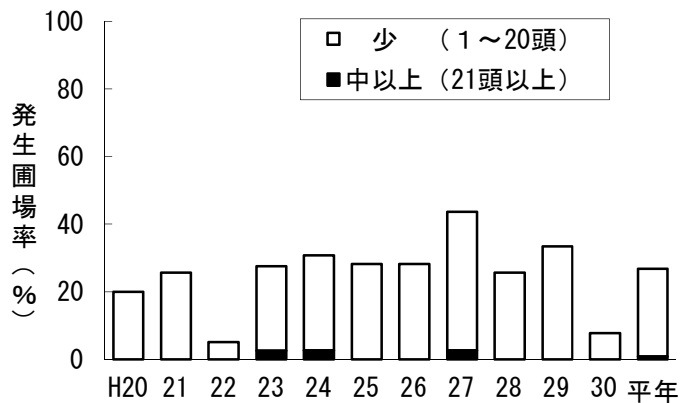


図5 斑点米カメムシ類発生圃場率の年次推移（6月中旬、水田畦畔、往復20回振）

6 コバネイナゴ

(1) 6月中旬の巡回調査における水田畦畔すくい取り調査では、発生圃場率は平年より高かった（図6）。

7 フタオビコヤガ（イネアオムシ）

(1) 6月中旬の巡回調査における本田すくい取り調査（県内39地点）では、幼虫の発生は確認されなかった（図7）。

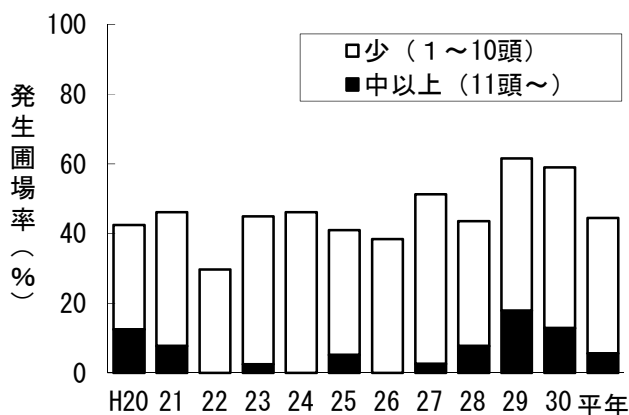


図6 コバネイナゴ発生圃場率の年次推移（6月中旬、水田畦畔、往復20回振）

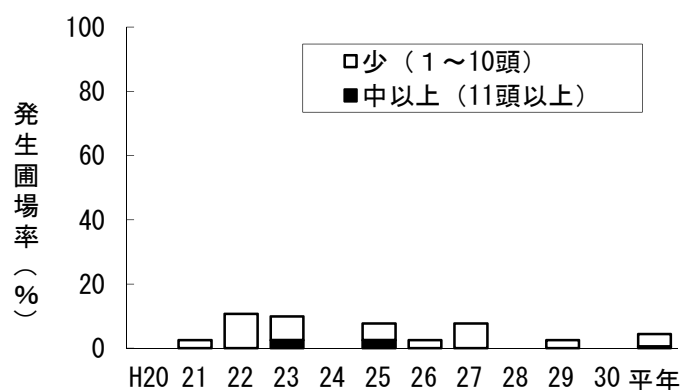


図7 フタオビコヤガ（イネアオムシ）幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬、本田、往復20回振）

農作物病害虫発生現況情報（6月） 麦 編

1 うどんこ病

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図1）。

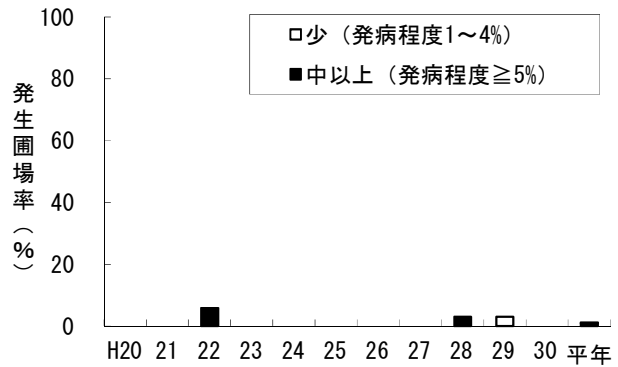


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

2 赤かび病

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった（図2）。
 (2) 地域別では、県南部で発生圃場率、平均発病穂率ともに高かった（表1）。

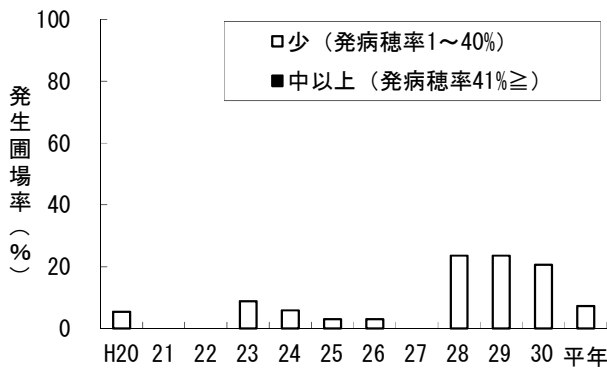


図2 赤かび病の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

表1 地域別の赤かび病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)	平均発病穂率 (%)※
県北	6	0	0	-
県中	23	4	17.4	5.0
県南	5	3	60.0	18.7
計	34	7	20.6	

※発生圃場における平均発病穂率

3 さび病類 (赤さび病)

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並だった（図3）。

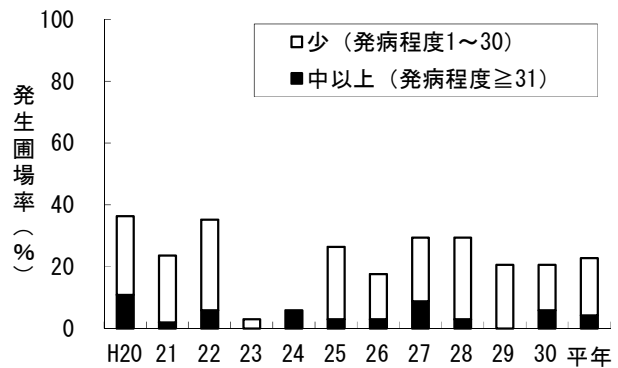


図3 さび病類 (赤さび病) の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月） りんご編

1 モニリア病

(1) 6月前半の巡回調査では、発生は確認されなかった(図1)。

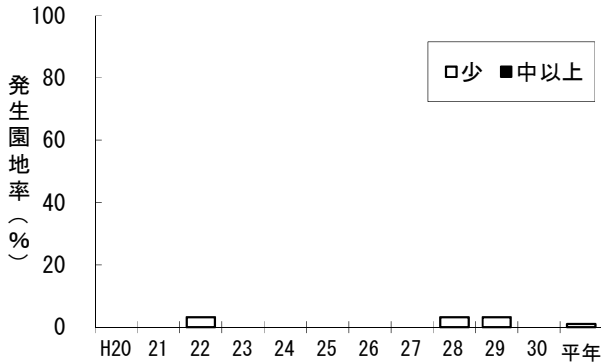


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移
(6月前半、実ぐされ、株ぐされ)

2 斑点落葉病

(1) 6月後半の巡回調査での発生園地率は、ふじ、王林ともに平年より低かった(図2)。

(2) 基準圃場(北上市成田、スターキングデリシャス、無防除)における発病葉率は、6月第5半旬まで平年より低く推移した。(図3)

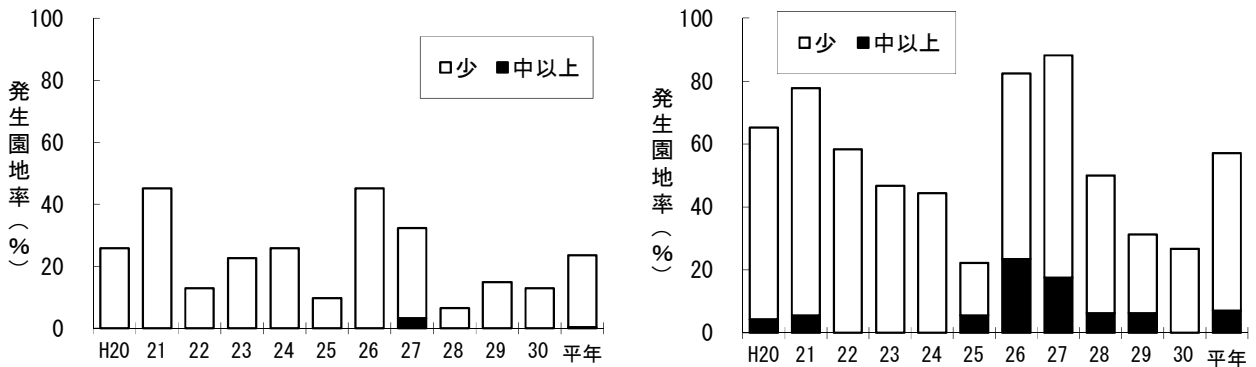


図2 斑点落葉病の発生園地率の年次推移 (左図：ふじ、右図：王林、6月後半、新梢葉)

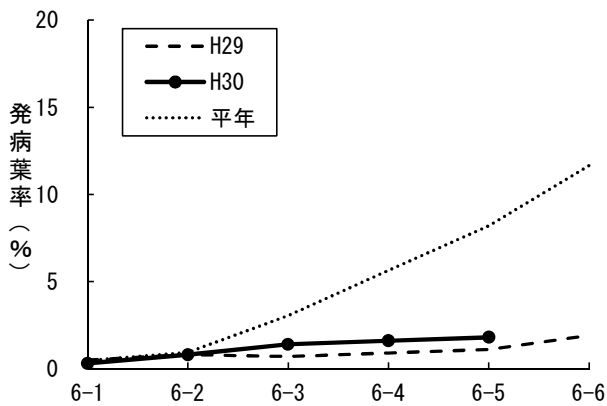


図3 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移
(月-半旬、新梢葉)

3 黒星病

(1) 6月後半の巡回調査では、複数の園地で新梢葉に発生が確認された。また、一部の園地では発生程度が高かった(図4左)。また、果実でも一部の園地で発生が確認された(図4右)。

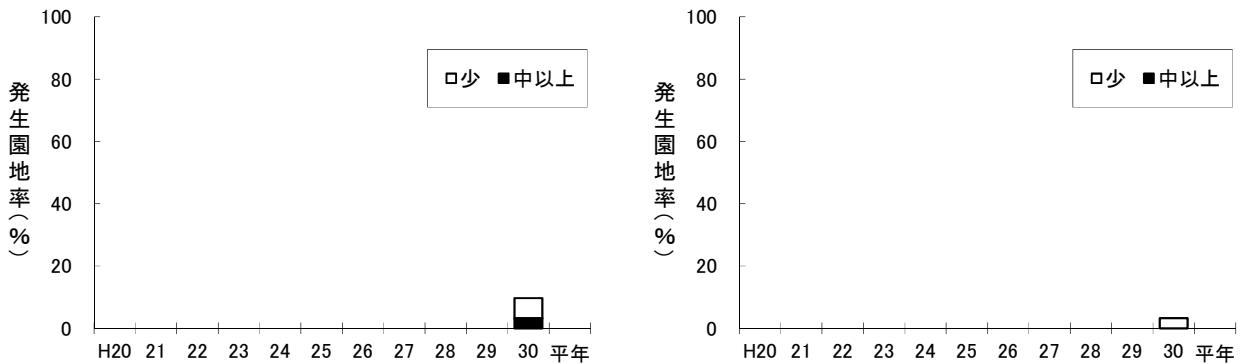


図4 黒星病の発生園地率の年次推移(6月後半、左図:新梢葉、右図:果実)

4 赤星病

(1) 6月後半の巡回調査での発生園地率は、平年より高かった(図5)。

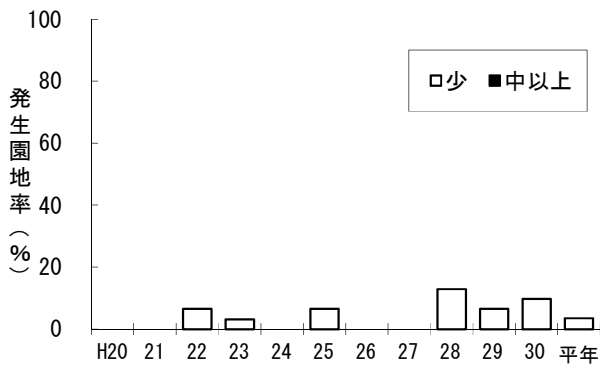


図5 赤星病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

5 褐斑病

- (1) 6月後半の巡回調査では、昨年多発した県南の1園地で発生が確認された。
- (2) 基準圃場(北上市成田、ふじ、無防除)では、6月第4半旬現在、発生は確認されなかった。

6 うどんこ病

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった。

7 キンモンホソガ

- (1) 6月前半の巡回調査での発生園地率は、平年より低かった(図6)。
- (2) 無防除圃場(北上市成田)における第1世代の発生ピークは、平年並の6月第4半旬に確認された(図7)。

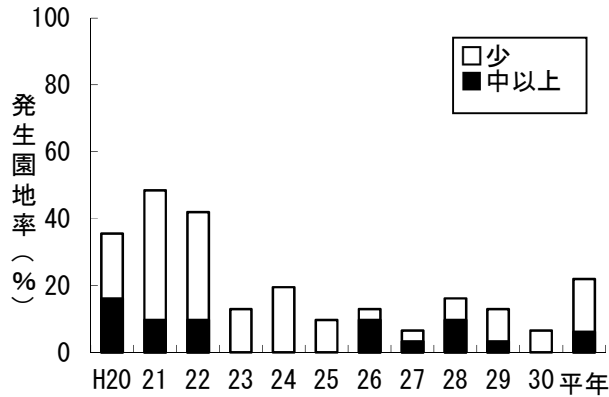


図6 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (6月前半)

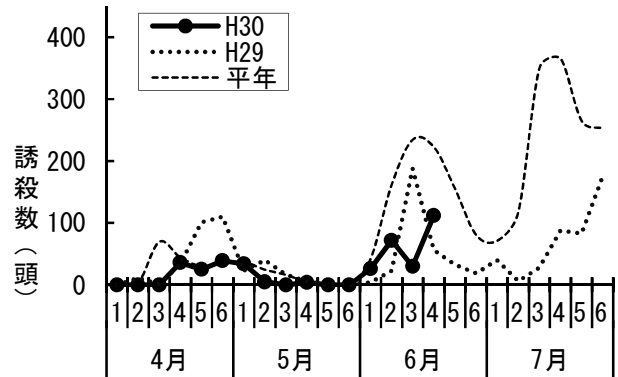


図7 無防除圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況 (北上市成田)

8 リンゴハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査での果叢葉における発生園地率は、平年よりやや高かった(図8)。
- (2) 時期別発生園地率は、6月前半は平年より低かったものの、6月後半は平年よりやや高かった(図9)。
- (3) 地域別発生園地率は、発生程度中以上の園地が確認されたのは県南部のみであった(図10)。

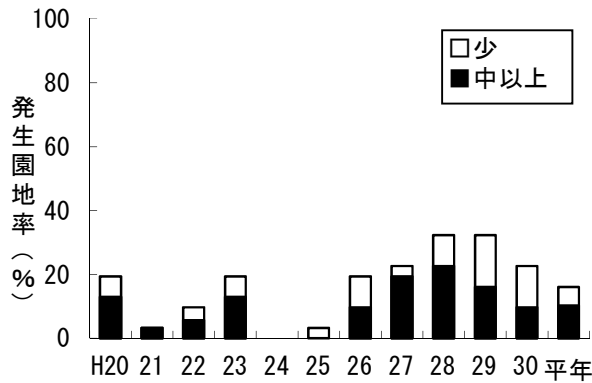


図8 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半：果叢葉)

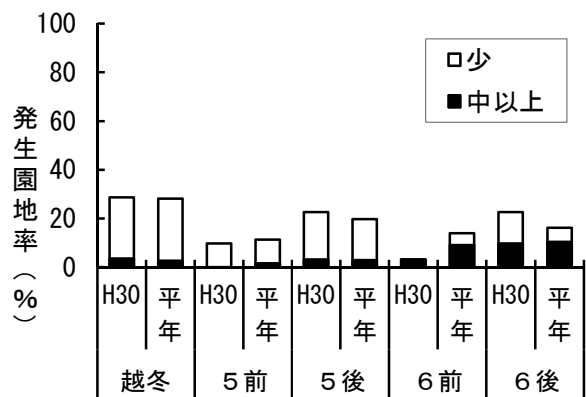


図9 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

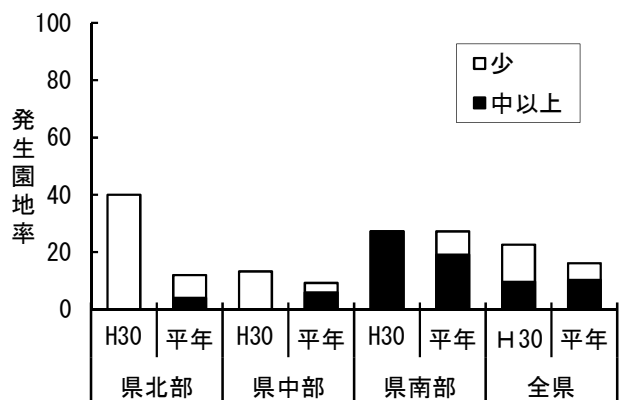
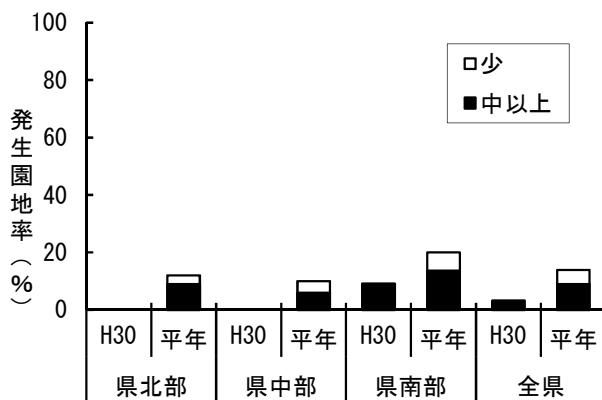


図10 リンゴハダニの地域別発生状況 (果叢葉、左：6月前半、右：6月後半)

9 ナミハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査での果叢葉における発生園地率は平年並であったが、発生程度中以上の発生園地率は平年より低かった(図11)。
- (2) 時期別発生園地率は、5月まで平年より低かったものの、6月前半、6月後半は平年並となった(図12)。
- (3) 地域別発生園地率は、県北部で平年より高く、発生程度中以上の園地も平年より高かった(図13)。

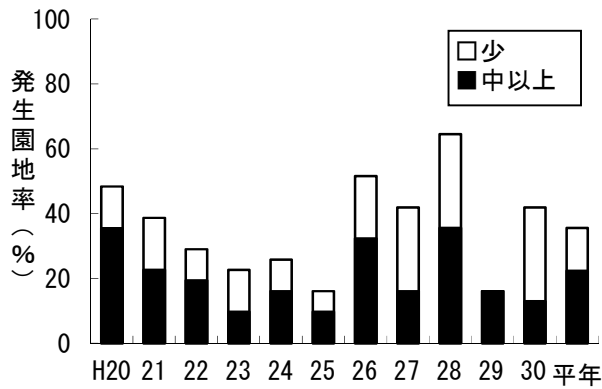


図11 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

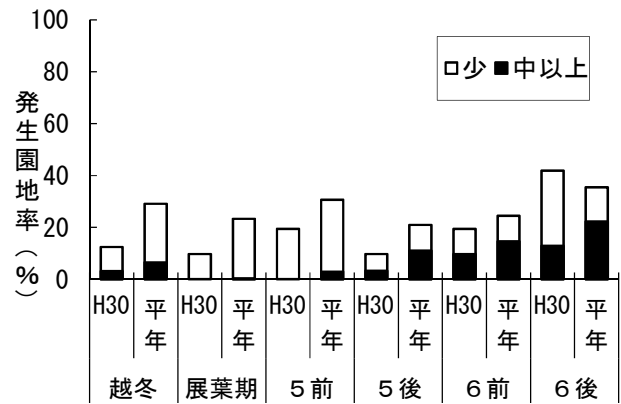


図12 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

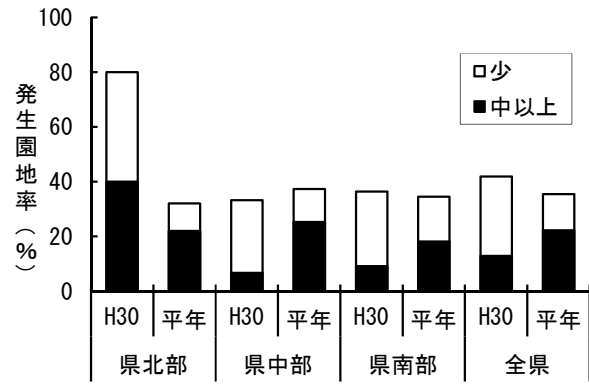
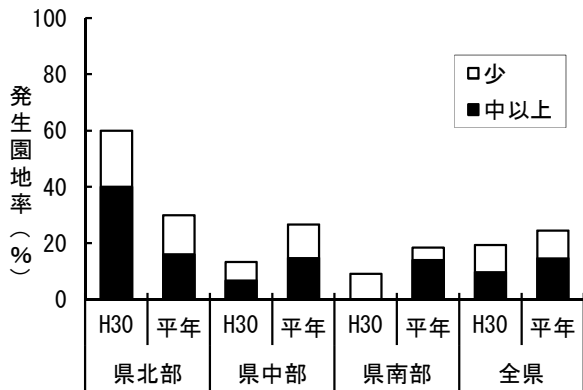


図13 ナミハダニの地域別発生状況 (果叢葉、左：6月前半、右：6月後半)

10 アブラムシ類

- (1) 巡回調査での発生園地率は、6月前半、後半ともに平年並であった(図14)。
- (2) 発生が見られた種は、リンゴミドリアブラムシ、ユキヤナギアブラムシであった。

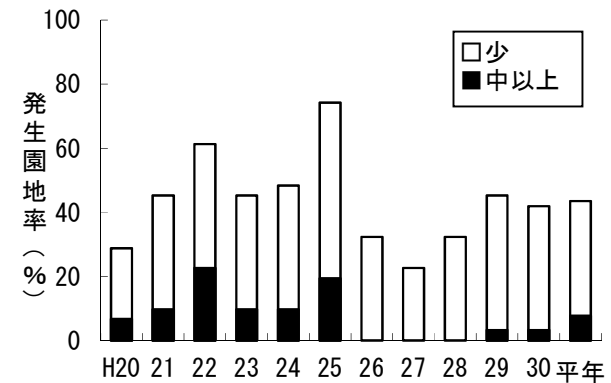
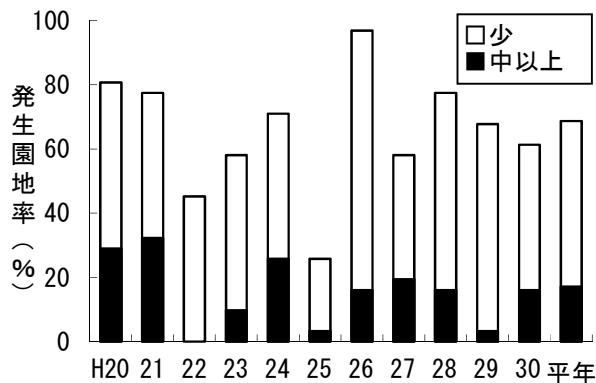


図14 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (左：6月前半、右：6月後半)

11 モモチョッキリゾウムシ

(1) 6月前半の巡回調査での被害果の発生は、一部園地で確認された(図15)。

12 ギンモンハモグリガ

(1) 6月後半の巡回調査における第2世代の発生園地率は、平年より低かった(図16)。

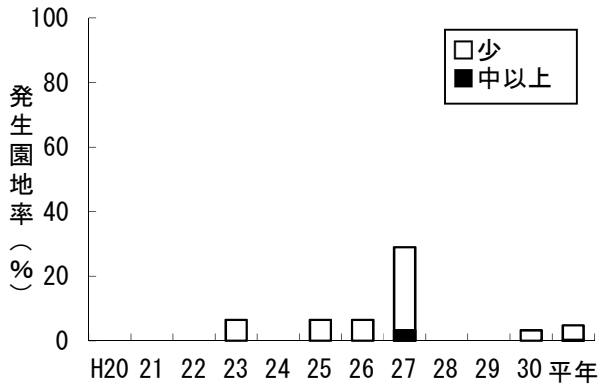


図15 モモチョッキリゾウムシによる被害果の発生園地率の年次推移(6月前半)

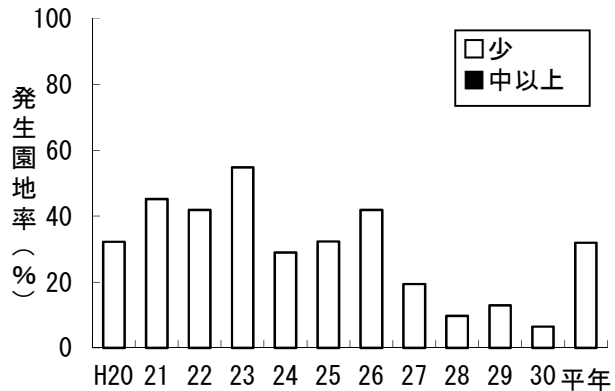


図16 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移(6月後半)

13 果樹カメムシ類

(1) 巡回調査での被害果の発生園地率は、6月前半、後半ともに平年より高かった(図17)。

(2) 集合フェロモントラップへの誘殺数は、5月に盛岡市川目で平年を上回る時期が見られたものの、6月は平年並であった(図18)。

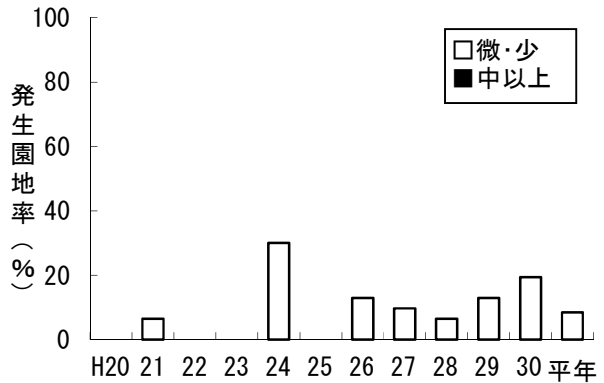
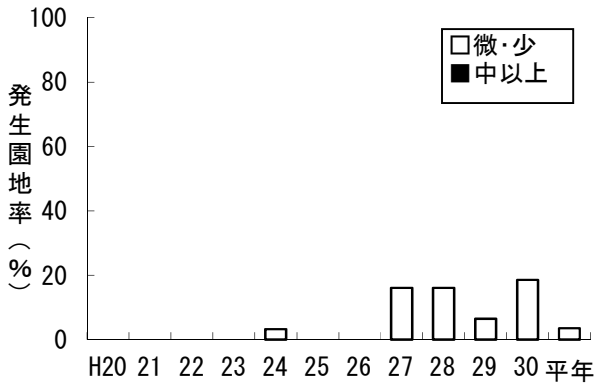


図17 果樹カメムシ類による被害果の発生園地率の年次推移
(左: 6月前半、右: 6月後半、調査品種: ふじ)

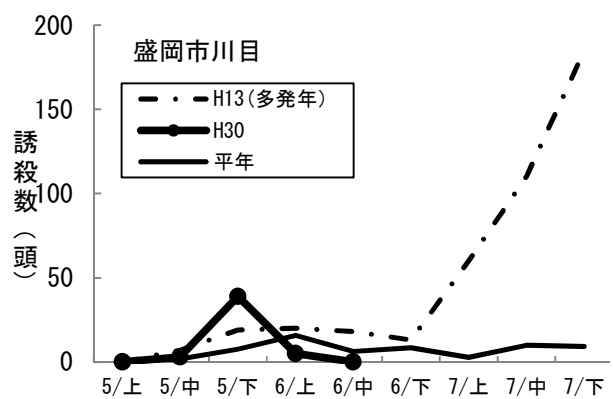
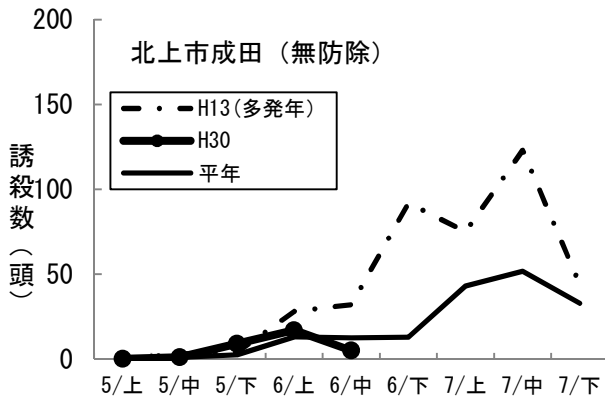


図18 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺数
(6月第1~4半旬、ただし盛岡市は第3半旬まで)

農作物病害虫発生現況情報（6月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(図1)。

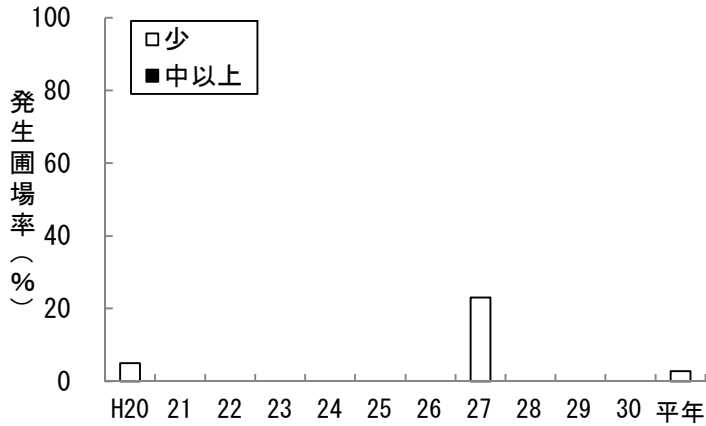


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

2 うどんこ病

(1) 6月下旬の巡回調査では、一部圃場でわずかに発生が確認された(図2)。

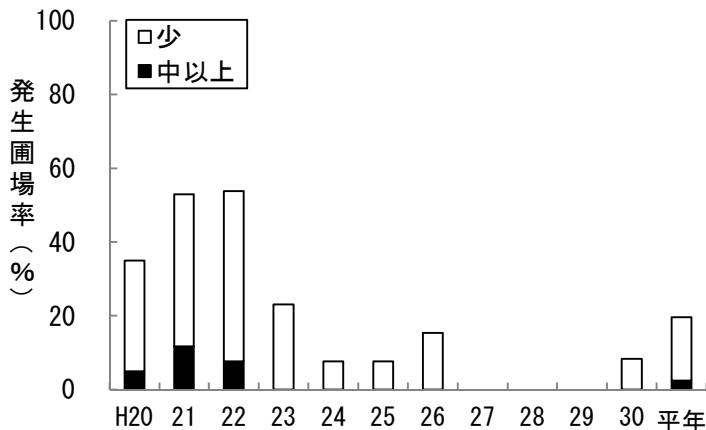


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

3 斑点細菌病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図3)。

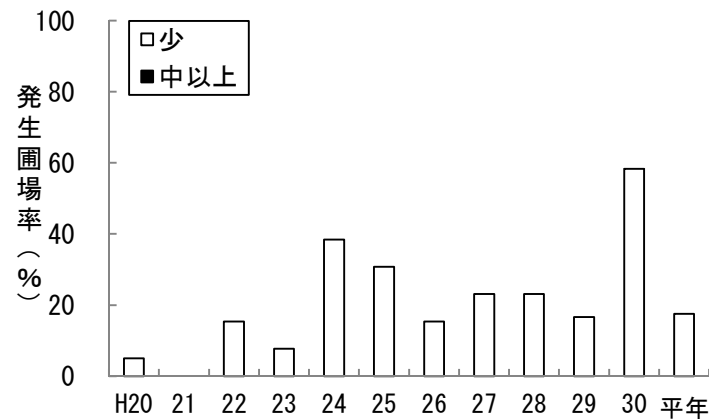


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

4 黒星病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かったが、発生程度は低かった(図4)。

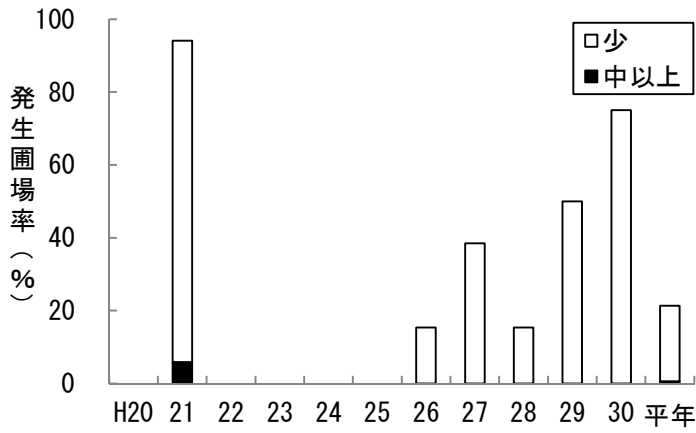


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

5 ワタアブラムシ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった(図5)。

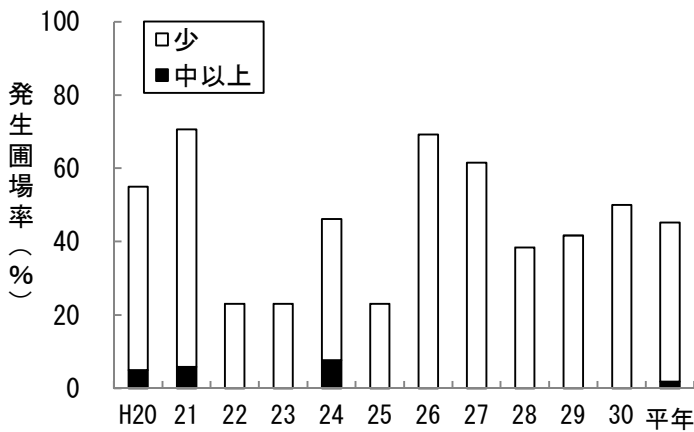


図5 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

6 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図6)。

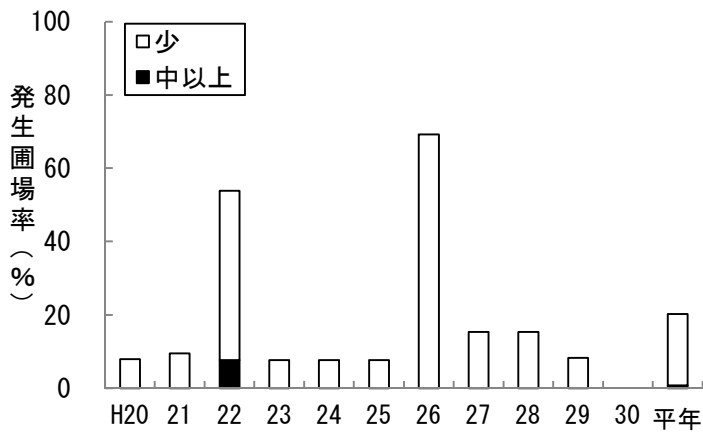


図6 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、ほぼ例年並であった（図1）。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年より多く、誘殺盛期はほぼ例年並であった（図2）。
- (3) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年より低く（図3）、幼虫発生圃場率は平年より高かった（図4）。

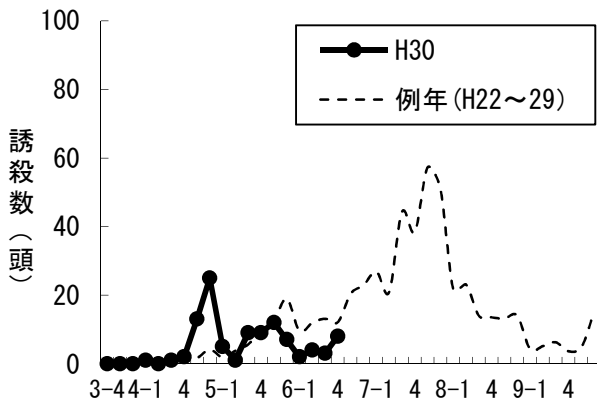


図1 軽米町におけるコナガの誘殺状況

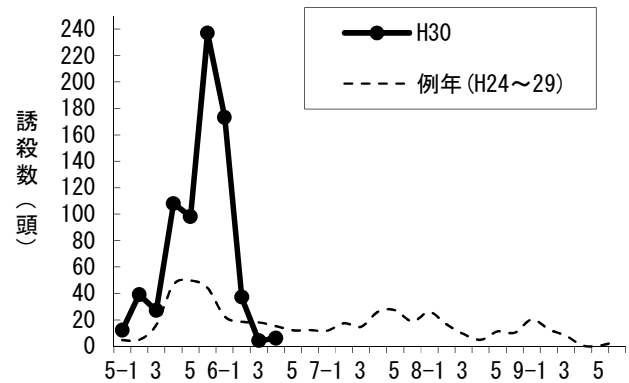


図2 岩手町におけるコナガの誘殺状況

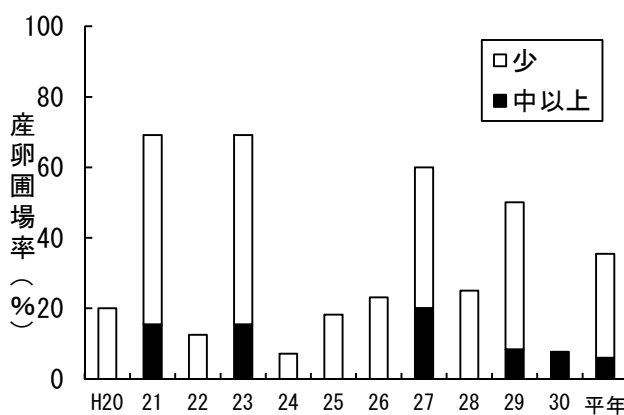


図3 コナガの産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

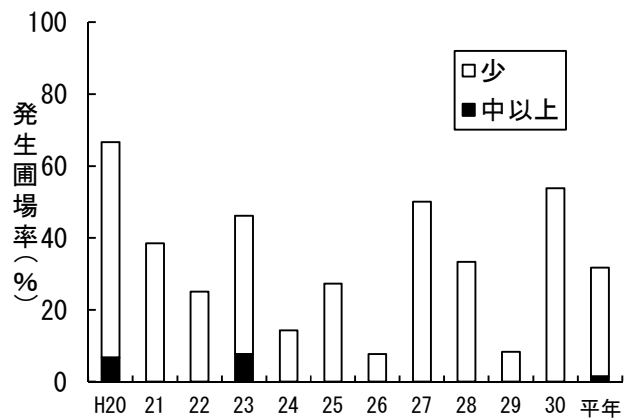


図4 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市）におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺盛期は5月第6半旬～6月第1半旬で、ほぼ平年並であった（図5）。
- (2) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年より高かった（図6、平成30年6月14日発表 病害虫防除速報 No.6を参照）。

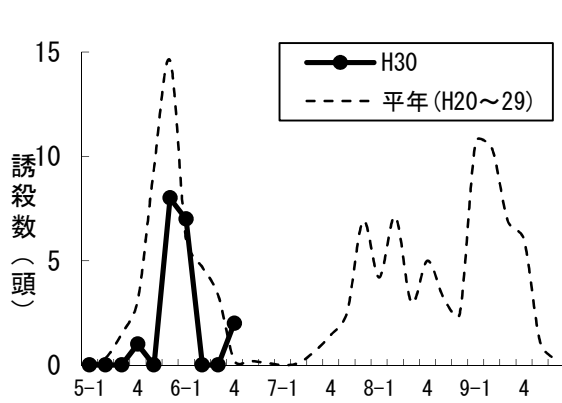


図5 基準圃場（北上市）におけるヨトウガの誘殺状況

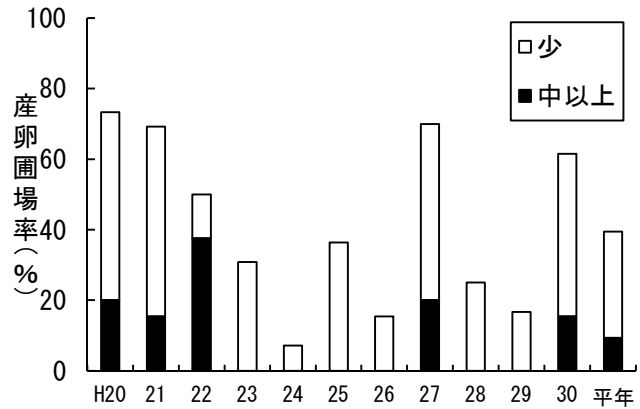


図6 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

3 ウワバ類

- (1) 6月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は平年並であった（図7）。

4 モンシロチョウ

- (1) 6月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は平年並であった（図8）。

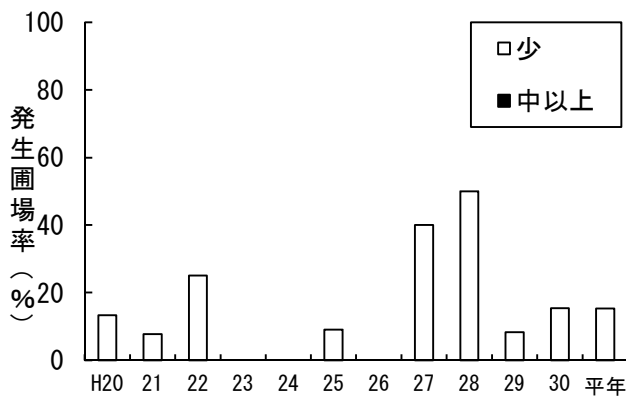


図7 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

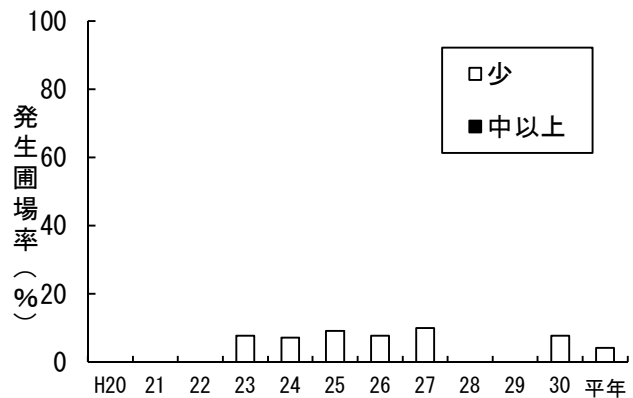


図8 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（6月） ねぎ編

1 さび病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった(図1)。

2 べと病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図2)。

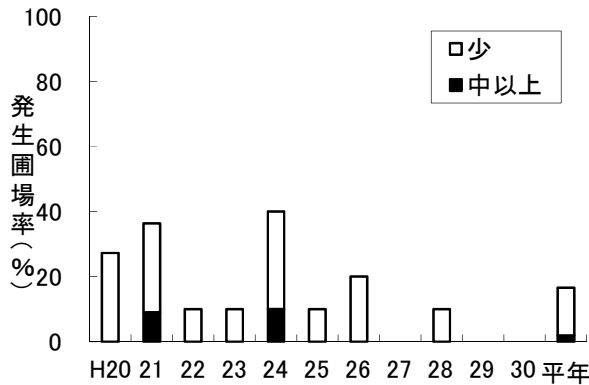


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

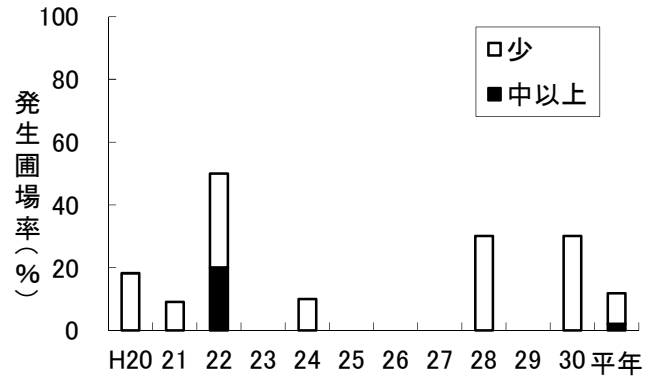


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった(図3)。

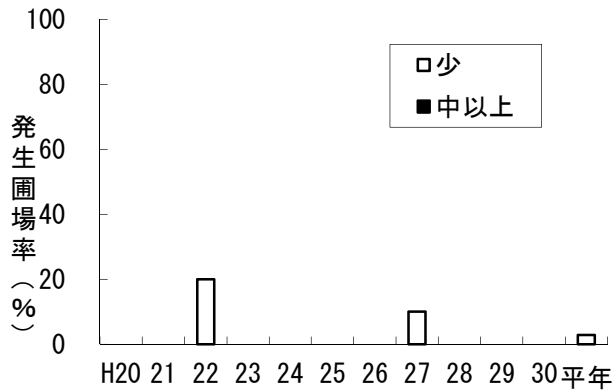


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

4 ネギコガ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であったが、一部で発生程度が高い圃場が見られた(図4)。

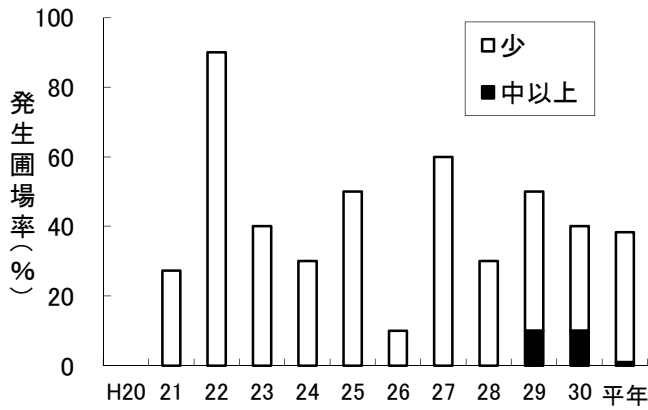


図4 ネギコガの発生圃場率の年次推移(6月下旬)

5 ネギハモグリバエ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった(図5)。

6 ネギアザミウマ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図6)。

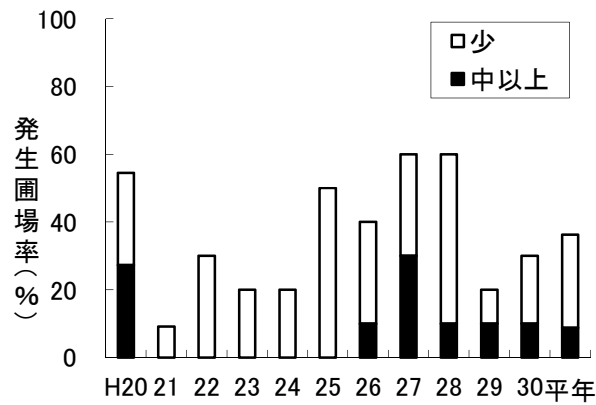


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移(6月下旬)

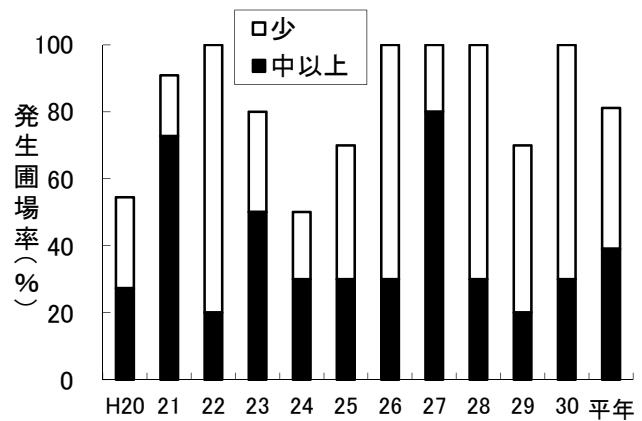


図6 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移(6月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや低かった(図1)。

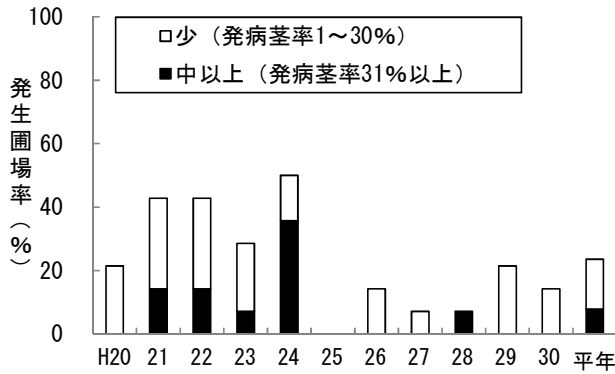


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

2 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図2)。

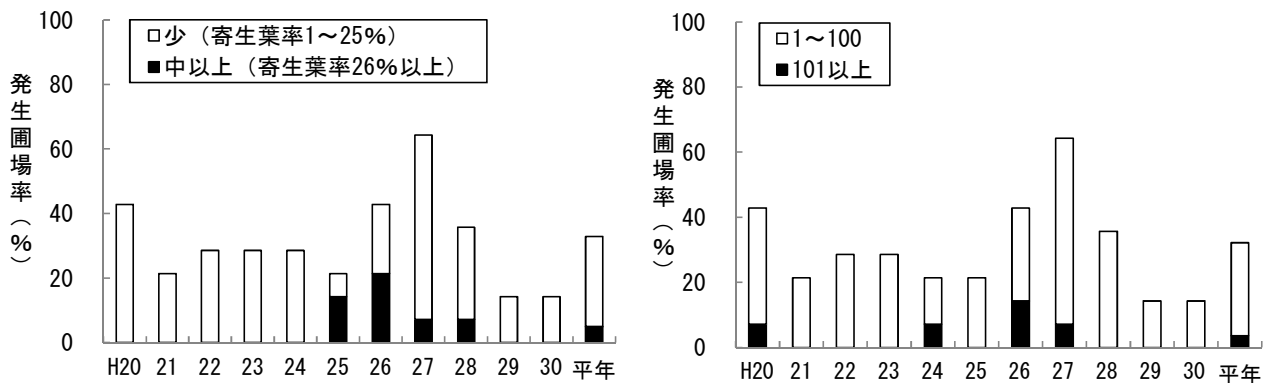


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、6月下旬)

3 リンドウホソハマキ

(1) 6月下旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は平年よりやや低く、生長部および茎部の被害は見られなかった(図3)。

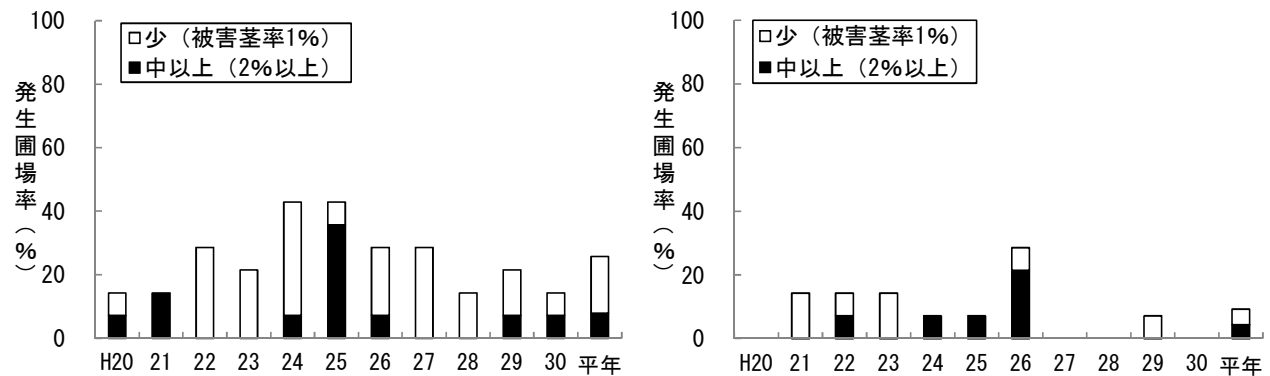


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左：潜葉痕、右：生長部・茎部、6月下旬)